

a 学校教育目標	自らの夢に向かって考え、行動できる子供の育成 —自ら伸びる ともに伸びる—	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分で考え、みんなと考え、行動できる児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 児童、教職員、保護者が「自ら伸びる ともに伸びる」という教育風土を持った学校 ・基礎・基本が定着し、児童が主体的・対話的に深く学ぶ姿がある学校 ・児童が夢や志をもち、安心して生活できる学校
----------	--	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	基礎学力の定着を図り、主体的に学ぶ力を育成する。	基礎学力の定着を図る。	「話す活動」「書く活動」の充実 すくすくタイム・のびのびタイム 実施	国語科・算数科・理科の単元末テストの結果(各学期)	各学期 各教科 平均85点以上	国語85.9 算数80 理科87.7		101% 94% 103%	B	・国語と理科は、目標値を達成することができた。 ・算数では、知識・技能85.1%、思考・判断・表現が75.9%と課題がある。「わり算」や「割合」の単元に課題がみられた。	・全学級において、本校の研究の柱である「問い」を位置づけた課題発見・解決学習や「話し合い活動」、「書く活動」の充実を図り、授業改善を行う。 ・のびのびタイムやすくすくタイムを活用して、基礎的な学習内容を確実に定着させる。	○	○	○	・昨年との比較をして、児童の伸びを丁寧に見ているため、今後の伸びが期待できると感じました。
		「学び続ける」ためのコンピテンシー(知識・情報、思考力、表現力、主体性)を育成する。	コンピテンシーの育成を目指した授業改善	児童アンケート「学び合いを通して、自分の意見を友達に伝えることができましたか。」「表現力、主体性」	肯定的評価80%以上	前年度偏差値48.6 本年度偏差値49.3		75%	B	・前年度との比較が可能な4学級中、3学級が前年度の偏差値を上げることができた。国語では、「伝え合うこと」、算数では、データの活用、理科は、エネルギーの領域に課題がある。 ・4月・9月のアンケートにおいて、目標の児童の肯定的評価80%以上を達成することができた。学び合いを通して、友達に自分の考えを友達に伝えることは、できるようになってきている。	・児童が学習意欲を高め、主体的に学ぶよう研究の柱に沿って、授業改善を行う。 ・来年度の学力調査に向けて、のびのびタイムやすくすくタイムを活用して、基礎的なプリントやアシストシートに取り組み、課題のある単元や領域を練習していく。 ・授業の中で「学び合い」の活動を設け、自分の考えを友達に伝えることに自信がもてるようにする。 ・ICTも効果的に活用して、大勢に対しても、自分の考えを分かりやすく伝える場を授業の中に取り入れる。				・すくすく、のびのびタイムを使用し、学習改善ができています。
		読書の習慣化を目指した取組の充実	読書量(1年間の読書冊数) 1・2年生100冊、3年生90冊、4・5・6年生80冊	達成した児童の割合 70%以上	49%	70%	C	・朝読書では、静かに読む習慣ができてきている。 ・各学年の達成率にかなりの開きがある。 ・学級文庫の読書数をカウントしていないこと、3年生以上の目標冊数が高すぎたことも、目標を到達できていない要因である。	・図書と司書教諭が連携して、本の選書や環境づくりを行う。 ・達成率の低い学年を中心に司書・司書教諭が読書の習慣化に向けたサポートを行う。 ・国語などの教科と関連させて、学習内容に合った図書を借り時間の確保をしたり、おすすめ本の紹介コーナーで作品を提示するのなど、読書の啓発に児童が参加できるようにしたりし、読書意欲を高める。 ・地域ボランティアや子ども司書、委員会と連携して、環境整備や読書意欲が高まるイベントを企画し、取り組む。	・委員会で読み聞かせ等の活動を行えている。					
豊かな心の育成	自分を愛し、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育てる。	集団として必要な基本的な生活習慣の定着と幼保小中連携の充実を図る。	「挨拶」「返事」「靴そろえ」の強化月間の実施	教職員及び児童アンケートによる評価「4段階3評価以上」(4月・9月・1月)	肯定的評価全項目平均 80%以上	92%	115%	A	児童会目標を毎月決め、できたクラスはシールを貼る取組を継続して行っている。また、学校全体での声かけも行い、目標値を上回ることができた。	児童が意識して生活することができるよう、児童会目標として取り組むことを継続する。引き続き児童会を中心に生活目標を考え、全体で取り組んでいきたい。	○	○	○	・キラキラカードの取組は自己肯定感の向上や集団作りにもつながっていると思います。 ・活動を通し、想いやりの心をもつ子がたくさんいるように感じた。 ・キラキラカードや施設内の掲示物等にも	
		自分を愛する心や思いやりの心、態度を育てる。	お互いを認め合う活動の充実	児童アンケートによる評価「自分にはよいところがある」(4段階3評価以上)(4月・9月・1月)	肯定的評価全項目平均 80%以上	83%	103%	A	児童会を中心に、月の目標を友達のいいところみつけし、キラキラカードをたくさん書くことができ、目標値を上回ることができた。	友達のいいところをみつけて、キラキラカードを書くことのできる児童が増えてきているので、強化週間が終わった後も、書く取り組みを継続していきたい。				・基本的な生活習慣の定着は家庭の力が大きく影響すると思います。 ・粘り強く保護者啓発を継続してください。	
健やかな体の育成	生涯にわたる健康に対する高い意識を育て、体力の向上を図る。	基本的生活習慣の定着を図る。	「早寝」「朝ごはん」の取組の実施	・児童アンケート「決めた時刻に寝ていますか」「毎日、朝食を食べていますか」(4段階3以上)(4月・9月・1月)	肯定的評価 80%以上	早寝 71.4% 朝ごはん 95.0%	早寝 89.3% 朝ごはん 118.6%	B A	学年ごとに保健指導を実施したり、児童保健給食委員会が掲示物の作成及び放送等で睡眠の大切さについて呼びかけを行ったりした。また、保健だよりに睡眠や生活習慣に関する内容を毎回掲載し、保護者への啓発を行った。しかし、就寝について中・高学年になるにつれ就寝時刻が遅くなる傾向がある。	学年の実態に応じた保健指導を実施する。特に中・高学年については、睡眠の大切さだけでなく、メディアとの付き合い方等についても触れ、生活習慣の改善につなげていく。また、児童保健給食委員会でも引き続き睡眠・生活習慣等について考えさせ、全校に発信していく。保護者へは引き続き、保健だより等で粘り強く啓発を行う。	○	○	○	4月に比べ9月が80%を下回る結果の所もあり、1月に期待します。	
		体力の向上を図り、体を動かすことが楽しいと感じる児童を育成する。	・体育授業の工夫及び改善 ・外遊びやなわとびの奨励	・体力テスト「握力」の結果(6月・1月) ・児童アンケート「週3日以上外遊びをしていますか」「なわとびが楽しいですか」(4段階3以上)(4月・9月・1月)	・6月の数値を1月に上回る児童 90%以上 ・肯定的評価 80%以上	握力- 外遊び 75.0% なわとび 70.8%	握力- 外遊び 93.8% なわとび 88.5%	B B	教職員に体育授業に係る情報を提供し、学年に応じた工夫を行った。また、朝の会等でグーパー運動を取り入れたり、宿題で実施したりして、継続した取組を行った。なわとび・外遊びでは、新たに2台のなわとび台を設置したり、担任による声かけ等を行ったりしたことで、なわとびの技を向上させようとする姿や、休憩時間には外で積極的に遊ぶ姿が見られた。しかし、なわとびや外遊びをする児童が固定化されており、体を動かすことの楽しさを感じさせるまでには至っていない。	体育の授業における工夫について、低・高学年部で情報共有の時間を確保し、好事例から発達段階に応じた取組につなげていく。また、なわとびではカードを活用したり、学級で目標を決めて取り組むことにより、なわとびの技の向上やもつとまくなりたいという意欲の向上につなげていくとともに、外遊びの気持ちよさや体を動かすことの楽しさを感じさせるよう、指導方法を工夫しながら継続して取組んでいく。				・職員の仕事の健康に配慮されていると感じました。 ・時間外勤務時間の達成率に取組の成果が表れていると思います。	
働き方改革	学習指導要領改訂や新たな教育課題等に適切に対応できる学校体制を構築し、教育の質の向上を図る。	地域・保護者が有する教育力との連携を図り、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。	地域の教材化、地域人材活用の推進	地域の教材化と地域GT招聘の実施回数による評価	各学年年間2回以上	100% (1学期末現在でのべ8回実施)		100%	A	・空港や市の防災担当者、社協の方、地域農家等と連携しながらほぼ予定通り地域の教材化を進めることができています。	・引き続き、地域の教材化や地域人材の活用を進め、児童の郷土愛を育むとともに、学校外の人に接する機会をもつことで、児童が多様な価値観に触れる場を提供していく。	○	○	○	・職員の仕事の健康に配慮されていると感じました。 ・時間外勤務時間の達成率に取組の成果が表れていると思います。
		教職員の長時間勤務を縮減し、健康で生き生きとやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進する。	成績処理や教材研究の時間の確保、業務のシェアリング推進、業務改善の継続的実施	市の「学校における働き方取組方針」の「勤務上限の目安時間」の達成(時間外の勤務時間が、月45時間を超えない。)	100%達成	87%	87%	B	・4、6、9月は達成率が80%と低かった。	・水曜日の定時退校日の完全実施や学期末の成績処理時間を確保する等、業務改善に努め、月の途中で職員全体の勤務時間を確認し声かけ等を行っていく。					

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。 ロ:自己評価は適正でない。 ハ:分からない。